

2011年8月9日  
大日本スクリーン製造株式会社

### 2012年3月期 第1四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

- ・ 2012年3月期の下半期業績予想に関して、5月10日発表から予想を変更していないが、その理由は？

これまで堅調であった半導体需要に減速の兆しが見られ、ファブリーやメモリーメーカーなどの半導体メーカーにおいて、設備投資計画の見直しの動きが顕著になるなど、今後の設備投資動向が極めて不透明な状況となりました。さらに、欧州の一部の国々における財政問題に加えて、決算発表直前における米国国債の格付けの引き下げやそれに伴う急激な円高など、マクロ経済においても一層予断を許さない状況となってきました。このように事業環境を見極めることが困難な現状を踏まえ、今回は下半期業績予想を見直さず、5月10日発表の予想を据え置くこととしました。

- ・ 2012年3月期の上半期業績予想を、売上高60億円、営業利益20億円、それぞれ減額修正しているが、その理由は？

半導体機器事業において、お客さまの設備投資計画の変更により一部製品に出荷時期が下半期に遅れる見込みとなり、上半期の売上予想を減額しました。また、FPD機器事業においても、一部製品に出荷時期が下半期へスライドする可能性が高くなりましたので、上半期の売上予想を減額しました。一方、メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業においては、PODが想定以上に堅調に推移する見通しとなり、上半期の売上予想を増額修正しました。これら売上の修正に伴い、営業利益の修正を行ないました。

- ・ 2012年3月期第2四半期は、第1四半期実績に比べて利益率が低下する予想となっているが、その背景は？

第2四半期は、第1四半期と比べて、研究開発費などの固定費の増加を見込んでいます。さらに、プロダクトミックスの影響による収益率の低下を見込んでいます。

- ・ 円高の影響は？

半導体機器事業、FPD機器事業においては、輸出取引の大半は円建てとなっており、直接的な影響は軽微であると考えています。一方、メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業の輸出取引は外貨建取引が多く、為替の影響は大きいと考えています。なお、全社での為替感応度として、USドル、ユーロにおいて1円円高になれば、営業利益において年間で2億円弱、0.5億円弱のマイナスインパクトがそれぞれ生じる見込みです。

以上